

開発環境の構築

まず、下記ソフトをインストールします。

① 統合開発環境

STM32CubeIDE

Version : 1.15.0

URL : <https://www.st.com/ja/development-tools/stm32cubeide.html>

② フラッシュライター

STM32CubeProgrammer

Version : 2.16.0

URL : <https://www.st.com/ja/development-tools/stm32cubeprog.html>

※ Version1にはサンプルプログラムを開発したときのものを記載してあります。

基本的には最新版をインストールすべきだと思いますが、

サンプルプログラムが動かない等の不具合がありましたら参考にして下さい。



サンプルプログラムのインポート

サンプルプログラムでハードウェアが確実にできているか動作確認をします。

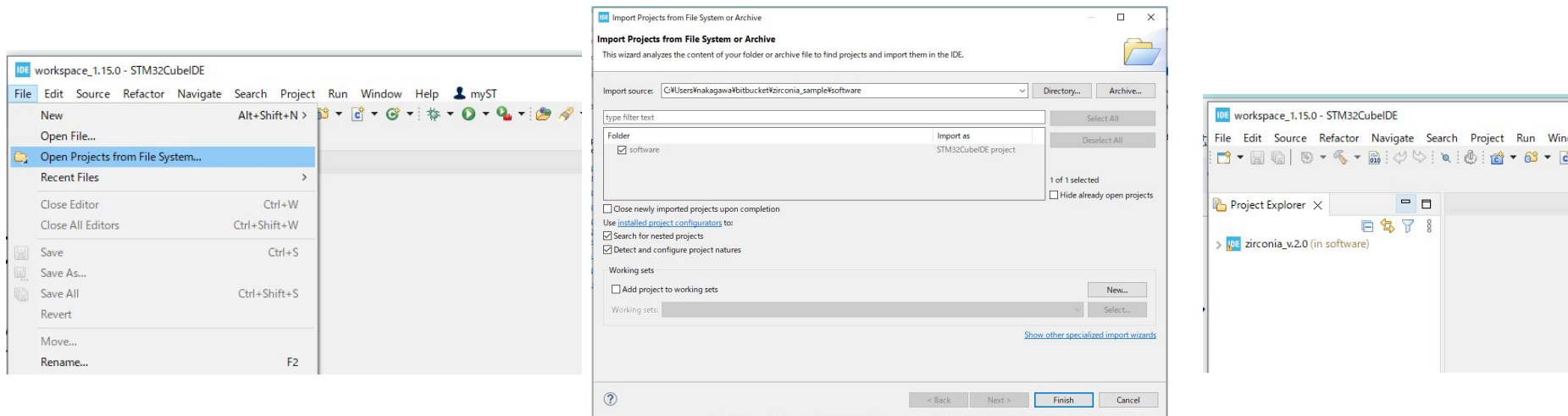
①STM32CubeIDEを起動すると、ワークスペースの指定画面が表示されます。

右の参照ボタンからサンプルプログラムがあるディレクトリを指定します。

②STM32CubeIDEが起動したら、左上のメニューバーから、ファイル→Open Projects from File System...を選択します。

インポート元にサンプルのフォルダを指定し、フォルダー欄にサンプルプログラム名が表示され、横のボックスにチェックが入っていることを確認したら、終了ボタンを押します。

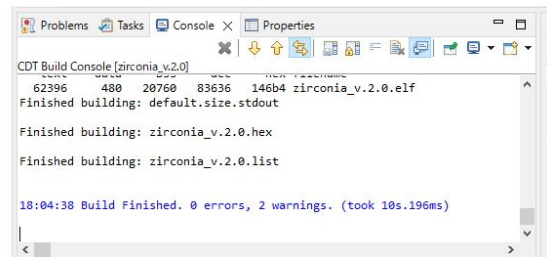
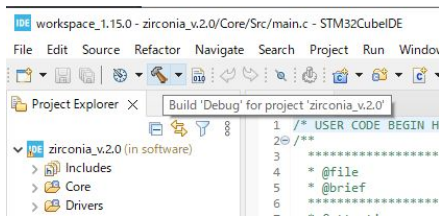
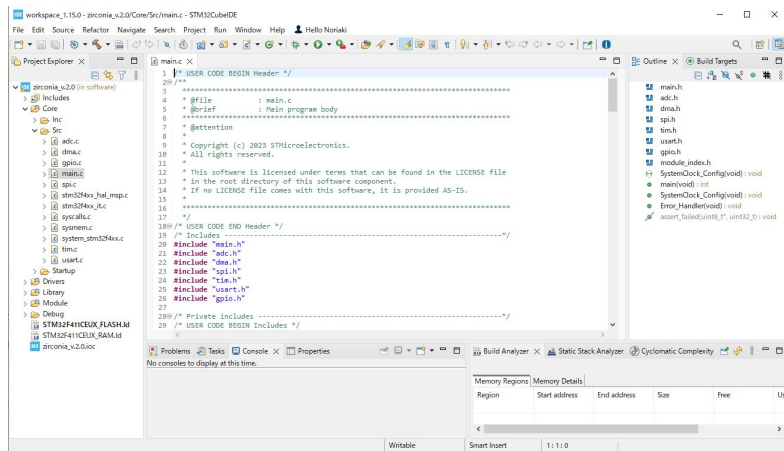
③左のプロジェクトツリーにサンプルプログラムがあればインポート成功です。



サンプルプログラムのビルド

①とりあえず main.cを開いてみましょう。

左のプロジェクトツリーから、zirconia_v.2.0→Core→Src→main.cを開くと、真ん中の画面にソースが表示されます。ソースの中身については後ほど解説します。



②サンプルプログラムをビルドします。

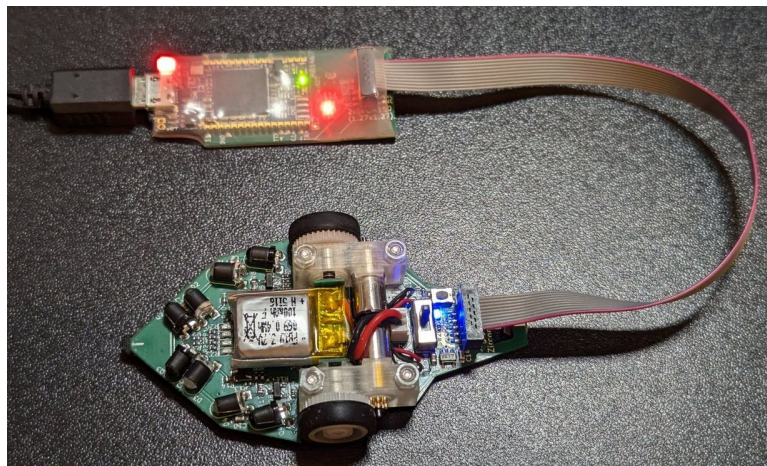
左上のメニューバーから、プロジェクト → プロジェクトのビルドを押します。

③ビルドが始まるとプログレスバーが表示され、

ビルドが正常に完了すると下のコンソール画面に「Build Finished」が表示されます。失敗した場合は、コンソール画面にエラーが表示されるので、気合でデバッグして下さい。

起動

- ① バッテリーと通信ケーブルをマウスと接続します。
- ② 電源スイッチを ON 側にして電源を入れます。



- ③ 電源スイッチ下の青色 LED が点灯していれば、起動しています。

フラッシュライタとの接続

ビルドしたサンプルプログラムを書き込みます。

- ①STM32CubeProgrammerを起動します。
- ②起動したら接続方法が ST-LINKになっていることを確認します。
- ③右上の Connect ボタンを押して、右上の赤丸が緑色になり、Connected と表示されれば接続成功です。

